

大阪市立大江小学校 令和元(平成31)年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 校内の学習アンケートにおいて、「学校で学習するのが好きで、自分から進んで取り組んでいる」、「授業の内容は、自分ではよく分かっている」において、「そう思う」「ややそう思う」と答える児童の割合を昨年度と同等または向上させる。 (マネジメント改革関連)</p> <p>② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 「本校の教育に関するアンケート」で、「運動に親しむことができている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>④ 「本校の教育に関するアンケート」で、「健康な生活習慣を身につけようと心がけている」という項目で、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>⑤ 長座体前屈の記録を春のスポーツテストの記録より、2学期末には1ポイント向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>【全市共通目標】</p> <p>① 平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>② 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>④ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>⑤ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における長座体前屈の記録を、前年度より1ポイント向上させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>課題を見つけ、互いに意見交換する中で主体的に解決を図っていく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。</p>	B
<p>指標 校内の学習アンケートを実施し、「積極的に意見が言えた」「友達の意見をしっかりと聞けた」と答える児童の割合を75%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【習熟度別少人数指導をはじめとする個に応じた指導の充実】</p> <p>特に習熟の度合いの低い児童にきめ細かい指導を行うために、習熟度別少人数指導コーディネーターや特別支援教育担当、学級担任が指導法について話し合い、児童が達成感や成就感を味わえるような指導を進めていく。</p>	B
<p>指標 校内の学習アンケートを実施し、「学習内容がわかる」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【体力向上への支援・体育的活動の充実】 児童集会で、運動委員会を中心に楽しく運動に取り組めるようにし、体を動かす喜びを味わえるようにする。</p>	B
<p>指標 校内の学習アンケートを実施し、「体育授業の他に1日1回以上、運動場や講堂で運動している」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【健康な生活習慣の確立】 給食後に歯みがきをするようにする。</p>	B
<p>指標 給食後に、歯みがきをしている児童の割合を70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>(中間評価・記入欄)</p> <p>① ○ 課題解決のためのペアトークや意見交流の機会を増やしてきた。その結果、意欲の高まりや主体性が見られている。また、その際自分の考えを書く活動を行うことが多く、学力テストの結果からも、「書く」における得点の向上につながっているものと考えられる。</p> <p>△ 話し合いの意図、目的をより明確にして、話し合い活動に取り組むようにしなければならない。また、上記のような活動（ペアトーク、意見交流など）を授業場面で多く取り入れることはできたが、対話的で深い学びにはまだ至っていない。</p> <p>アンケート結果として、「進んで意見が言えた」は59%、「友達の意見をしっかりと聞けた」は77%となっている。意見を聞くことはできているが、進んで意見を述べる機会が増えていくよう、課題について見通しを立てたり、学んだ知識を相互に関連付けてより深く理解したりできるよう、授業を構成し、指導に当たっていきたい。</p> <p>② ○ 単元前に事前アンケートを作ったり、打ち合わせを入念に行ったりすることで、計画通り、学力に応じた指導につながっている。学習アンケートにおいても、全単元70%以上の児童が、「学習内容がわかる」と答えている。今後も継続して、習熟度担当、特別支援教育担当、学級担任が連絡を密に取り、指導法を工夫していく。</p> <p>③ ○ 学級による「みんな遊び」や、業間等の外遊びの声掛け、バスケットボールやドッジボールタイムなど、運動の機会を確保するための工夫を行っている。</p> <p>△ 外遊びと室内遊びの児童が二分化されており、個人差が大きい。よって、運動委員会により、「一日一回は外で遊びましょう」といった放送で全校に呼びかけるようにし、児童が体を動かす習慣化を図っていく。</p> <p>④ ○ 食べたら磨くという習慣は身についてきている（週間、指導、放送）校内アンケートによると、1, 2, 3年生の80%以上は給食後の歯磨きがほぼ毎日行うことができている。学校全体としても、72%を超えており、今後も指導、声掛けを続けていく。</p> <p>△ 歯磨きの時間までに食べ終わっていない児童が多く、配膳の仕方など手立てや工夫を考えていく必要がある。また、歯磨きをする児童も学年によってばらつきがあったり、歯磨き週間以外の時は疎かになってしまったりすることもあるため、今後も継続的に、学年学級で指導、声かけを進め、定着を図っていく。</p>	

大阪市立大江小学校 令和元(平成31)年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】	
①「本校の教育に関する児童アンケート」で、「人それぞれ違いがあり、いろんな友達と一緒に学ぶことでいい友達関係ができている」と好意的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 ②「本校の教育に保護者間アンケート」で、「なまを大切にする心が育ってきている」という設問に対して肯定的な回答の割合を85%以上にする。	B (カリキュラム改革関連)
③「全国学力・学習状況調査」の児童質問紙の「学校のきまりを守る」「いじめはどんな理由があつてもいけない」に関する項目で肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 ④集団育成や児童理解の深化に向けて、人権教育や特別支援教育等の研修会を昨年度に引き続き充実させる。	B (マネジメント改革関連)
【全市共通目標】	
①平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ②平成31年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか。」の項目について「当てはまる、どちらかといえばあてはまる。」と答える児童の割合を85%以上にする。 ③平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ④平成31年度末の校内調査において、あらたに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 年度末の校内調査により学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳心・社会性の育成】 様々な活動で他者とのかかわりを深めることにより、自尊感情を育むことができるようする。	B
指標 児童アンケートの自尊感情に関する項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	
取組内容②【規範意識の育成】 右側歩行ができるようにする。	C
指標 日常から全校集会や学級で意識づけを目的とした指導を行うとともに、児童アンケートの規範意識に関する項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	
取組内容③【人権を尊重する教育の推進・生活指導上の課題への対応】 児童理解を深めるために、人権についての研修会を定期的にもつとともに、情報交流の場を設け、全教職員で共通理解を図る。	B
指標 職員会議の後、学級の実態を報告し合い共通理解していく。必要があれば生指部会を開く。特別支援研修会を年2回実施し、人権教育研修会に年1回以上参加する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

(中間評価・記入欄)

＜道徳心・社会性の育成＞取組内容①・②

○授業時間での意見交流や学級活動、委員会活動やクラブ活動、なかよし班活動などを通して児童の自尊感情の高まりを感じている。

△「ちがい」を受け入れことができず、友達同士で傷つけ合っている場面もみられる。

＜規範意識の育成「右側歩行ができるようにする」＞取組内容②・⑤

○全校集会（生活指導目標）や学級での意識付け、委員会活動などで指導の効果が一定表れているが、廊下や階段で走る児童がいたり、右側ができていない児童がいたりする

△右側歩行の意識はあるが、まだまだ定着していないので、継続指導が必要である。

＜人権を尊重する教育の推進・生活指導上の課題への対応＞取組内容③

○職員会や研修会、各種会議において、児童の実態についての共通理解は図れている。各機関との連携も適切に行われている。

○教職員が自分の担当やクラスだけでなく、学校全体に目を向けて協力して課題を解決しようという姿勢になった。